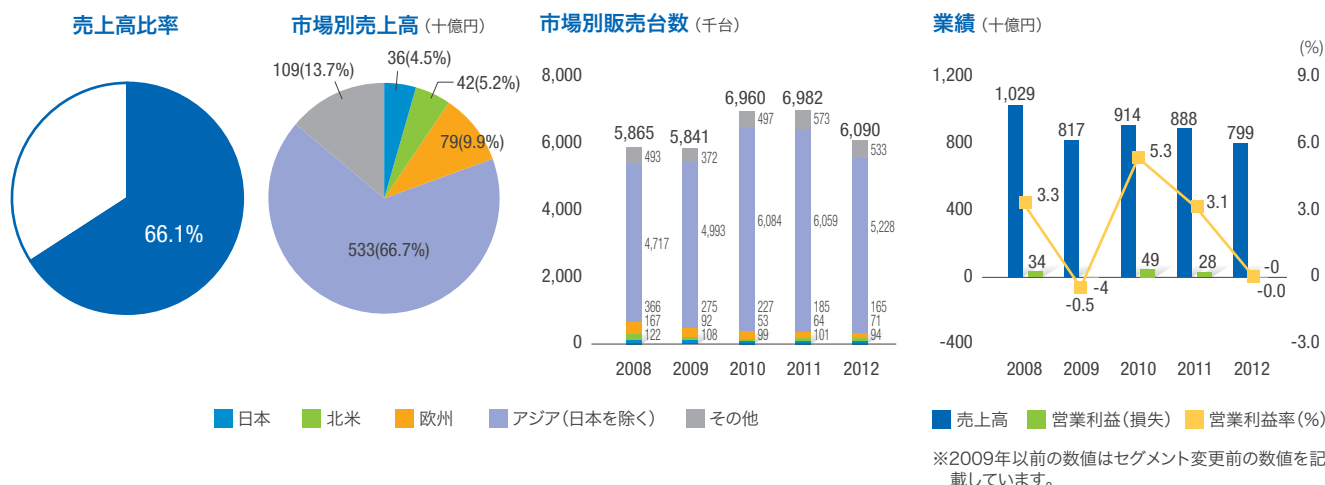


二輪車事業

2012年の二輪車事業の売上高は、前年比889億円(10.0%)減の7,987億円となり、売上高全体の66.1%を占めました。また、営業損益は欧州・一部新興国での販売減少・在庫調整や円高影響などにより前年比278億円悪化し、2億円の営業損失(前期は営業利益276億円)となりました。

スナップショット
トップインタビュー
特集
事業の概況
CSR情報
企業情報
財務セクション



日本

小型二輪の需要は好調

2012年の国内二輪車市場は、景気の低迷から個人消費に大きな改善が見られず、小型二輪・軽二輪は各社のニューモデル投入効果により全体需要を押し上げたものの、原付1種(50cc以下)・2種(51cc~125cc)ともに震災復興需要に支えられた前年を下回り、二輪車総需要は前年比0.6%減の44万台にとどまりました。

当社販売におきましても、小型二輪は『YZF-R1』『XVS400』『SR400』など好調に販売が推移したものの、原付2種カテゴリで『AXIS Treet』が大きく計画を割り込み、全体実績を押し下げる結果になりました。これらの結果により、2012年の当社販売台数は前年比6.7%減の9.4万台、売上高は同2.6%減の361億円となりました。

2013年の国内二輪車総需要は、原付2種で各社ともニューモデルの投入が見込まれ増加が期待できるものの、小型二輪・軽二輪でのニューモデル投入による需要喚起が一段落することから、前年より微増の44.6万台と見込んでいます。

当社では、2013年後半に小型二輪・軽二輪カテゴリでのニューモデル投入を予定するほか、『SR400 35周年モデル』などの限定車導入による市場活性化、積極的な販促策実施により、2013年の販売台数は前年比7.1%増の10.1万台を計画しています。

欧州

ブランドカ、商品、販売網を活かして危機的状況を打破

2012年の欧州経済は、長期化する金融財政不安に対応する各国の緊縮財政政策が相次いで実施された影響により、個人消費の低迷が継続しました。特にイタリア・スペイン・フランスでは依然厳しい環境下であり、欧州の二輪車総需要は前年比11.7%減の174万台となりました。

欧州金融機関の与信限度枠引き締めなどにより販売店が仕入を手控える中、当社では2012年にニューモデル『TMAX』『Xenter125/150』2モデルを導入。特に『TMAX』は当社独自のブランドカと、商品の価値、欧州全2,700店の販売網も巻



SR 400

き込んだ市場導入販売活動が顧客に受け入れられ、販売が好調に推移し、競合を含めた全二輪モデル中、全欧ベストセラーを獲得しました。主力モデル『XJ6』『FZ8』も、年初からの全販売網を巻き込んだプロモーション展開により計画どおりの販売を達成しました。

しかしながら、前述のとおり総需要の減少が大きく影響し、2012年当社の販売台数は、前年比11.1%減の16.5万台、売上高は同13.1%減の792億円となりました。

2013年は、欧州の金融財政不安が継続し、消費の冷え込

みが二輪車総需要に影響を及ぼすと見込んでいることから、前年比2.8%減の170万台と想定しています。当社では、モデルチェンジした『FJR』を導入したスポーツ領域や新モデル『XMAX400』を導入したスクーター領域をさらに強化してまいります。50cc領域ではスポーツモデル『AEROX』をモデルチェンジ、また『Bw's50』『Neo's50』の廉価バージョン導入によるスクーターラインアップの拡充により2013年の販売台数は前年比8.8%増の17.9万台を見込んでいます。



Xenter125/150



XJ6

スナップショット

トップインタビュー

特集

事業の概況

CSR情報

企業情報

財務セクション



スナップショット

トップインタビュー

特集

事業の概況

CSR情報

企業情報

財務セクション

北米

回復する需要を取り込み堅調に拡大

2012年の北米市場は、失業率や消費者信頼感指数などの米国主要経済指標が緩やかに回復へと向かう中で、高価格帯モデルが好調に推移し、低価格帯モデルの回復も顕著でした。その結果、北米総需要は前年比2.5%増の50.2万台となりました。

米国ではクルーザーカテゴリーやコンペカテゴリーでは苦戦しましたが、『TW200』『XT250』などのデュアルパーパスカテゴリーやスクーター、ダートの小型モデルにおいて当社の強みを活かし、販売は好調に推移しました。これらの結果、2012年の当社販売台数は前年比10.3%増の7.1万台、売上高は同16.9%増の416億円となりました。

2013年の北米総需要は、回復基調の中、中間価格帯モデルも活況を取り戻すものと見込まれ、前年比3.8%増の52.1万台と想定しています。

当社では、ニューモデル投入を積極的に行いコンペ、スポーツなどのラインアップ拡充によってモデル競争力を強化していきます。これらの施策により、2013年の販売台数は前年比

3.2%増の7.3万台を計画しています。

アジア

需要減少の踊り場局面を迎える

2012年のアジア(日本を除く)市場は、一部新興国での金融規制政策や欧州経済危機の影響から景気は減速局面を迎え、二輪車総需要は前年比3.1%減の4,410万台へと縮小しました。

当社販売台数も、インドや前年に洪水影響があったタイで増加しましたが、インドネシア・ベトナムでの需要減少により、前年比13.7%減の523万台、売上高は同10.3%減の5,330億円となりました。

2013年は再び安定した経済成長に向かうものと想定され、アジアの二輪車需要は前年比0.4%増の4,430万台と、微増ながら拡大すると見込まれています。

当社では、ニューモデルの積極的な投入を継続し、マーケティングの強化に取り組むことで、2013年販売台数は前年比13.6%増の594万台を計画しています。

アセアン

踊り場からブランド力強化による規模拡大へ

2012年のインドネシア経済はGDP成長率5%台で堅調に推移しましたが、コモディティ価格の下落と6月からのクレジット頭金規制が大きく響き、二輪車総需要は前年比9.2%減の727万台となりました。

当社販売におきましても、スポーツカテゴリー『V-IXION』『BYSON』の販売は好調に推移したものの、需要拡大傾向にあるオートマチック・トランスミッション(AT)カテゴリーに投入した主力モデル『Mio J(ミオJ)』が顧客を十分に捉えきれず、ATカテゴリーでの当社シェアを減少させる結果となりました。2012年の当社販売台数は前年比22.7%減の242万台、売上高は同19.4%減の2,645億円となりました。

2013年のインドネシア二輪車総需要は、堅調なGDP成長率や生活の足としての二輪車の重要性を背景に、前年比4.6%増の760万台を見込んでいます。

Jupiter Z1



この拡大するマーケットを捉えるべく、日本製大型バイクの投入、全国1,000カ所でのヤマハモーターショー開催、KIDS YSRs*の全国展開等による顧客接点力強化活動、そしてレース活動、アパレル・アクセサリーも含めたブランディング活動を強化し、2013年は前年比13.5%増の275万台の販売を計画しています。

※YSRS: Yamaha Safety Riding Science

V-IXION



スナップショット

トップインタビュー

特集

事業の概況

CSR情報

企業情報

財務セクション

2012年のタイ市場は、前年の洪水被害からの迅速な回復による旺盛な内需に支えられ、二輪車総需要は前年比6.1%増の213万台と過去最高を記録しました。

当社では、FI搭載の『Filano』『TTX』『Mio 125i』など5機種、マニュアル・トランスミッション(MT)セグメントではパワフルかつFI搭載で低燃費の『Spark 115i(スパーク115i)』と、積極的にニューモデルを投入し、2012年の当社販売台数は前年比16.1%増の55万台と伸長した結果、売上高は同4.0%増の745億円となりました。

引き続き好調な経済環境により、2013年の総需要は、前年比3.3%増の220万台と見込んでいます。

当社ではFI搭載化による主力モデル『Fino』の商品力強化や、全国50カ所で開催する『Spark 115i』試乗会などの顧客接点強化により地方での市場浸透を図ることで、2013年の販売台数は前年比5.5%増の58万台への拡大を目指します。



Nozza

2012年のベトナム市場は、2011年からの政府インフレ抑制策による金融引き締めにより経済成長が減速し、二輪車総需要も消費マインドの冷え込みから前年比6.6%減の311万台となりました。

当社販売においては、需要減の影響から販売台数は前年比減少したものの、スポーツモペッドカテゴリーにて135cc『Exciter(エキサイター)』、ATカテゴリーにて女性向けFI搭載モデル『Nozza(ノザ)』が堅調な販売を維持し、普及価格帯でも『Sirius(シリウス)』が地方での安定した販売に支えられ、2012年の販売台数は前年比6.6%減の92万台、売上高は同10.2%増の893億円と需要減の影響を最小限にとどめることができました。

2013年のベトナム市場は、前年からの回復を見込み、二輪車総需要は前年比1.0%増の314万台と想定しています。

当社では、FI搭載モデルを軸とした新機種3モデルの投入や、エリアマーケティングの徹底により2013年の販売台数は前年比5.4%増の97.2万台を目指します。



Spark 115i

インド

スクーターカテゴリーに市場参入

2012年のインド市場は、インフレの進行から景気停滞感が加速し、二輪車総需要は前年比5.6%増の1,381万台と成長が鈍化しました。

そのような環境の中、当社においては特に高級価格帯モデルの販売が減少しました。一方、成長が継続するスクーターカテゴリーへの初参入モデルとして、2012年9月に『CYGNUS RAY (シグナス レイ)』を投入し、インド南部・西部の若い女性を中心に販売を伸ばしました。その結果、2012年の当社販売台数は前年比1.4%増の35万台となり、売上高は同0.4%増の398億円となりました。

2013年のインド市場は、政府の経済対策による効果や中間所得者層の増加が期待されることから、二輪車総需要は前年比4.3%増の1,440万台と底堅い伸長が見込まれています。

当社では、スクーター需要の7割を占めるインド南部・西部にマーケティングをフォーカスし、『CYGNUS RAY』のバリエーションモデルを投入。販売網の拡充と連動してプロモーションを積極展開することで、2013年の販売台数は前年比43.5%増の50万台を目指します。



CYGNUS RAY

中国

経済成長鈍化から販売も減速

2012年の中国市場は、欧米の景気低迷に起因する輸出の減少から経済成長が鈍化し、耐久消費財への支出が減速傾向にある中、広東省でのナンバー規制強化や四輪車・電動自転車の普及が二輪車総需要にも影響を及ぼし、前年比10.0%減の1,263万台となりました。

当社でも、新規に投入した『YB125-SP』、スクーターカテゴリーで好調だった『凌鷹100』が購買意欲減退の影響を受けて減速し、2012年の当社販売台数は前年比19.0%減の49万台となりました。

2013年の二輪車総需要は、減少の傾向が続くと想定し、前年比10.3%減の1,133万台となる見通しです。

当社では、主要顧客層である地方若者向けの販売施策を積極展開することで、2013年の販売台数は前年比21.8%増の60万台の販売を目指します。

中南米

周辺国好調もブラジルの減速をカバーできず

2012年の中南米市場は、欧州・中国での経済停滞の影響からブラジル経済が減速していく中で、各金融機関のクレジット引き締めにより、ブラジル二輪車総需要は前年比14.7%減の165万台となりました。コロンビア、メキシコなどの周辺国の需要増もこれをカバーするに至らず、中南米合計では前年比9.2%減の405万台となりました。

ブラジルでは、当社600cc以上の高価格帯モデルの販売は堅調に推移したものの、小売ファイナンス利用率の高い主力の125ccストリートカテゴリーで大きく販売が減少し、2012年の販売台数は前年比32.4%減の16万台に縮小しました。その結果、中南米全体での販売台数は前年比11.3%減の43.2万台となりました。

2013年は、ブラジルのクレジット承認率が改善され、下期以降の業績回復に期待が持てることから、ブラジルの二輪車総需要は前年比5.3%増の174万台、中南米全体では同12.5%増の456万台を想定しており、当社においてはブラジルの販売台数はニューモデル投入により前年比25.3%増の21万台、中南米全体では同24.7%増の54万台への拡大を見込んでいます。